

和名衣太エダとあり手足は樹枝と同じさなる物なる故に共に延陀エダと云なり其の枝を本にて、
は非ず此も彼も本よりの名なりさて此の枝字を延佳は可作肢乎と云れども延陀と云名注
じければ通はして枝とも書るは古の常なり漢籍にすら孟子に爲長者折枝と云るな趙氏注
には折枝アサキ按摩也と云り凡て支枝肢は皆本は同じくして相通ふ字なり

〔東大寺正倉院文書二十三〕御野國本簀郡栗栖太里太寶貳年戶籍

下政戶刑部書戶口十三略○中 忍勝甥物部廣世年卅九
一支廢廢疾

〔東大寺正倉院文書十二〕山背國愛宕郡雲下里計帳三年○神龜

戶主出雲臣文田年漆拾貳歲略○中 妻出雲臣族梗虫賣年陸拾捌歲 一。支。廢。女。

〔類聚名義抄手三〕手音守

〔伊呂波字類抄人體〕手足手

〔萬葉集二挽歌〕天皇智○天崩時婦人作歌一首 姓氏未詳

空蟬師ウツセ神爾シノカミ不勝者ヘタ離居而ハナレ朝嘆君アサノミ放居而ハナレ吾戀君ワガコイミ玉有者タマアリ手爾テニ卷持而マキモテ衣有者キヌナラバ脫時ヌケトキ毛無モウケラフ吾戀君ワガコイミ曾伎ソノノ賊ソノ乃夜夢ヨイニ所見ミ鶴ツル

〔萬葉集十一古今相聞往來歌〕正述心緒

朝宿髮アサチガミ吾者ハク不梳ウラジ愛君之手アヒミノテ枕觸マクラフ義之鬼尾シモノノヲ

〔古事記上〕所殺迦具土神之於頭所成神名正鹿山上津見神○中 次於左手○所成神名志藝山津見神○

志藝志藝二字以音次於右手○所成神名羽山津見命

〔古事記傳五〕手は執トなり登理を切れば知なれど凡て第二

〔日本書紀三武〕己未年二月高尾張邑有土蜘蛛其爲人也身短而手足長與侏儒相類

〔源平盛衰記三十七〕一谷落城并重衡卿虜事

東西ヨリ火ニ責ラレ人ニ被責テ皆舟ニノラント渚ニ向テ落行ケルモ海ヘノミコソ馳入ケレ